気候変動適応策をビジネスに
～静岡県内企業の取組みと学生による調査・広報活動～

キーワード　気候変動・気候変動適応策・適応ビジネス・イノベーション

○取り組んだきっかけ

地球温暖化を含めて、近年の気候変動による様々な事象が静岡県での日常においても表われてきているのにお気づきになられた人も多いと思います。こうした変化に私たちはどのように対処していったら良いのでしょうか。気候変動に対するアプローチは原因を解消する「緩和（二酸化炭素などを減らす）」とすぐには無くならない気候変動とうまく付き合っていく「適応（損失や被害を避ける）」があります。

実際、静岡県に住んでいて気候変化（降水量や平均気温の上昇、台風の増加、集中豪雨の水量増等々）とそれに伴う自然災害や農林水産業への影響を感じ取られている方も多いのではないかと考えています。これらの事象は温暖化ガスを世界中が一致結束して減らしたとしても、なかなか100年前の気候に戻るということはないとされています。まさに我々が必要なのは上記の「適応」になってくるわけです。

私は以前、（公財）地球環境戦略研究機関というシンクタンクで、気候変動適応策のチームリーダーをしていた経験から、全地球規模に影響のある気候変動に対して、特に適応策は地域における取組が重要だという認識を持っています。藤枝市に本拠を置いている静岡県環境衛生科学研究所の中に静岡県気候変動適応センター[1]があります。こちらのホームページを見ていただくと、適応について研究をされている成果だけでなく、静岡県の各産業が取り組んでいる適応の事例についていろいろ紹介されています。
さらに近年では単に気候変動の影響を軽減しようというだけではなく、気候変動による様々な変化をビジネスチャンスとして捉え、新しい製品やサービスを開発していこうという「適応ビジネス」が注目を集めるようになってきています。

○活動の目的と内容

前述の気候変動適応センターの神谷主査にいろいろご相談をしているうちに、静岡県内の企業がどのように「適応ビジネス」に取り組んでいるかを実地調査をしてみようという話になりました。さらに、常葉大学経営学部で学んでいる私のゼミ生にも協力していただき、実際の会社に帯同し自分の疑問や考えをインタビューすることが、より深く気候変動やビジネスのことを理解する機会と考えました。

そしてこの度、神谷主査のご紹介により、浜松市において建設工事・土木工事・環境ソリューション事業等で高い評価を得ている㈱丸源竹内組を訪問させていただきました。代表取締役社長の竹内社長はお忙しい時間の中から、快く聞き取り調査にご協力いただきました。同社による適応ビジネスのきっかけは、近年の温暖化により企業の事務所や工場の温度が上がり、労働環境や製造工程に多大な影響が出てきている点でありました。冷房のための費用が膨大となり企業の利益を圧迫していることに目を付けたのです。同社の絶え間ない研究開発により、大幅に冷房費用を圧縮する遮熱塗料を製品化することに成功したのです。実際に学生たちは竹内社長のご厚意により、様々な実験を体験させていただき、遮熱塗料の効果を実感することが出来ました。

気候変動適応策は、一般に気候変動による不測の事態に対するレジリエンス（対応力）を高めるための活動ですが、㈱丸源竹内組の取組みはレジリエンスを高めるだけではなく、それをビジネスチャンスとして捉え、地域経済へプラスのインパクトを与えるものです。

このような静岡県内の企業のユニークな取り組みを研究し、環境への取り組みが経済にとっても良い影響を与える事例研究をさらに進めてまいりたいと考えています。また今後の計画として、気候変動適応センターにご協力いただき、既に第2回、第3回と静岡県の企業の実地調査の企画が立てられております。

○期待される効果

「気候変動適応とビジネス」という課題は私の研究テーマとして取り組むだけでなく、ゼミを中心に学生諸君が自主的にこのテーマに向かい合うことが重要と考えます。企業の適応ビジネスにおける独自の研究開発について学び、その成果を学生の成果として心薙祭で研究発表を行います。このプロジェクトは単年度で終了するものではなく、ゼミの学生が引き継いで研究し、静岡県の企業のユニークな活動について周知活動を行っていく予定です。また、最前線で活躍されているビジネスパーソンに直接お話を伺い、自分の質問を投げかけることのできる貴重な機会を通し、学生たち一人一人がビジネスについて考え、社会人になる自分自身のビジョンを描いてほしいと考えています。

林　信濃
経営学部経営学科
准教授
連絡先：s-hayashi@sz.tokoha-u.ac.jp

1 静岡県気候変動適応センター　https://kaneiken.jp/tekiou-center/tekiou-index.html